

2021年度年末手当等に関する申し入れ

会社回答には到底納得できず、妥結には至らず！

本日、本部は第3回交渉を行い、年末手当等に関する申し入れの会社回答が示されました。その内容は
1. 基準額は基準内賃金の2.0ヶ月とする 2. 支給日を令和3年12月3日(金)以降準備出来次第とする
という到底納得できないものでした。

平均支給額 661,600円

【参考】2020年度年末手当 平均支給額 740,400円

会社回答に対する4つの問題点

1. 職場の努力に報いた回答ではない

『]…東労組 「]…会社

- ・『2.0ヶ月という回答で本当に声を受け止めているのか?』と聞くと、会社は「厳しい現実である。好循環を生み出さなければならない」と、“好循環”という言葉繰り返す。
- ・『組合員の悲痛な声を受け止めていない。過去最高の働き度にも関わらず過去最低の回答である。労働実感、生活実感、職場の努力を受け止めていない。今後離職が増えるのが懸念される。魅力のない会社になっている』と訴えるも、会社は「経営トップの判断も含めた回答」と述べる。

2. 生活実感に重きを置いた回答ではない

- ・『示された回答書には、生活実感に対する回答は記載がない。』と訴えると、会社は「生活実感は意見を受け止めた上で回答している」と述べる。交渉団は『本当に受け止めているのならば、生活実感について書くはず。書かないということは、会社は生活実感を重要視していない』と認識。
- ・勤続25周年の副賞をもらい、使用用途を聞かれ、組合員が『生活費に充てる』と答えると、薄ら笑いを浮かべる幹部がいることも交渉の中で突き付けてきた。

3. 年末手当が昨年よりも下がるのが理解できない

- ・『上半期は780億の増収。年末手当が下がる理由は?』と訴えると、会社は「期末手当はダイレクトに決算状況を反映するものではない。会社を取り巻く様々な状況を勘案し、総合的に判断するもの。」と回答。それに対し、『去年よりも職場の努力が低いということか?組合員の声を把握しつつも、好循環という会社の成長を重要視しているのではないか。』と再度問うと、「声は受け止めている。総合的に判断した。」と回答。(※第3回交渉の中では、会社側は“総合的”という言葉19回も繰り返す)

4. 賞与削減有りきの姿勢ではないか

- ・第1回団体交渉の前日にマスコミに対し、一般論としての“賞与削減の可能性”を述べたJR東日本会社。「期末手当は交渉団と真摯に議論して判断する」と言葉では言いつつも、回答書には生活実感等については何も記載がない。“好循環=会社の成長が社員の成長”のために社員を犠牲にしたのでは。

黒字の時は突出感、赤字の時は足元の動向、景気回復の兆しの際は好循環、を理由にする会社に対し、

東労組は明日以降、準備出来次第、再申し入れを提出します！